

コマツ バイオマスボイラ燃焼灰を肥料化

農林業の活性化へ

石川県農総研、朝日アグリアと

コマツ 小川啓之社 川農農林総合研究センター 木質燃焼灰の肥料化に成功したことによる県内農林業の活性化に貢献する。

政徳社長、加賀地域における森林資源の有効利用促進と産業

東京都豊島区と共同 廃棄物削減の取り組みで、コマツ

粟津工場 モデルとして、農林業に活用している

運用している 循環サイクルを構築

バイオマスボイラの 業廃棄物削減およびカー

ボンニユー トラル表現

と、バイオ マス燃焼灰

を肥料として 活用する

て活用する 年間約6000

の未利用間伐材などを活用することにより、林

地整備の促進や大雨における流木被害の抑制などに貢献した一方、バイオ

マスボイラ運用で発生する、年間約20tの木質燃焼灰を産業廃棄物処理していることが課題となっ

リウムなどの肥料有効成分が適量含まれ、栽培試験においても従来肥料と差異がないことが判明したため、2017年8月

たため、2017年8月 進んでおり、2023年 破砕機を用いて混合粉砕を行い、かが森林組合から岐阜県などの大型バイオマス施設向け

に燃料として供給している。これにより、山林から生産される木材が、製材用、合板用、木質バイオマス用など

また、木材チップを生かして、かが森林組合においても、伐採や用として幹からバーク材集積作業中に発生する

で余すところなく利用可能となった。今回の粟津工場のバイオマスボイラの燃料に適さず、大木材のカーボンニユー

部分を生産廃棄物処分している課題を有している。このため今回の加賀林業の一層の活性化のために、生産活動における

産業廃棄物排出量削減と排出した廃棄物の再資源化への促進が期待される。



かが森林組合での根本材・バーク混合破砕の様子



バイオマス燃焼灰を用いた肥料の試作品